

横浜市 歴史博物館 NEWS 36 2014・3 博物館

- ◇いんたびゅー 帝京大学文学部教授、東京大学名誉教授 今村啓爾
考古資料の展示が珍しかった時代 土器を見て感激 縄文研究へ向かう
- ◇企画展「昔のくらしと年中行事ーちょっとむかしのよこはまー」によせて
- ◇企画展「ハマの東海道」によせて
- ◇特別展「佐久間象山と横浜ー海防、開港、そして人間・象山ー(仮題)」によせて
- ◇〈研究余話〉武藏吉良氏とその家臣たち
- ◇〈ちよいとミュージアムショップたいむ〉横浜市歴史博物館 オリジナルグッズ
- ◇学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業
- ◇新指定・登録文化財パネル展
- ◇〈知ってますか?〉「博物館感謝デー」



帝京大学文学部教授、東京大学名誉教授
今村 啓爾 (いまむら・けいじ)

考古資料の展示が 珍しかった時代 土器を見て感激 縄文研究へ向かう



◎考古学に興味をもったきっかけは何ですか。

小学校五年生の時、目黒区に住んでいたのですが、東横線の菊名駅近くへ化石を拾いに行ったのです。途中、宅地造成をしているところがあった、その地面に縄文土器のかけらが多数落ちていました。五、六〇年前のことで、当時は事前調査しないで宅地化され、遺跡が掘り返されたままになっていました。その二年前、学校の遠足で武蔵野郷土館に行き、石器や縄文土器など見学しました。僕はよく覚えていないのですが、母によると、帰ってから「こんなものがあった」といろいろな絵を描いて夢中になって説明したそうです。そういうものは偉い学者だけが入手できるとも珍しいも

のだと思っていたので、自分でみつけることができ感激しました。以来うまく遺跡を見つければ、いくらでも拾えることを知り、学校が休みの日に、自転車で行く学校の方へ、拾いに行くようになりました。集めた土器が何式か、自分で調べて分類したので、縄文式土器なら大体、型式が区別できるようになりました。

横浜で落とし穴を推論

◎横浜の考古遺跡とはどんな関わりがありますか。

大学に進んで考古学を勉強し始めて、最初に関わった発掘調査が港北区の宮の原貝塚です。先に、武蔵野美術大学の学生が土器への関心から発掘を始め、その後、大学

が調査することになった遺跡で、私は学生の指導役になりました。表面は縄文中期後半の貝塚でしたが、その下に縄文中期の初めと縄文早期の貝塚が重なっていて、予想以上に貴重な遺跡だと分かりました。その後、緑区の霧が丘遺跡の調査にも関わりました。ここでは、楕円形の穴が多数、見つかりました。私は、狩猟のための落とし穴ではないかと推論しました。穴と地形の関係を調べるため、広く表土をはいたところ、穴がけもの道の方向に合わせて作られていることが確かめられたので、落とし穴説を発表しました。強い反論もありましたが、その後、全国各地で同様の穴が見つかり、霧が丘遺跡の穴も落とし穴だと認められるようになりました。

考古学の骨組みを作る

◎考古学にとって横浜はどういう意義がありますか。

かつて考古学の研究者が東京に集まっていた関係で、千葉、茨城と並んで横浜・神奈川は日本考古学の骨組みが作られた地域と言えます。土器の型式には、神奈川県の名の付いたものがとても多いのです。また、港北ニュータウンは、遺跡が非常に集中している地域です。この辺りは、生活に便利な平らな台地が広がり、しかも、谷がたくさん入り込んでいて水の便がよいので、暮らしやすかったと考えられます。宅地化前に広く調査して、大きな成果が上がりました。今後も貴重な遺跡の調査報告書

が出されることにより、新たに興味を引くような考察が出ることも望まれます。

歴史から学ぶ社会に

◎当館に期待することは。

歴史の総合的な博物館ですが、創設が検討された段階では、隣接する大塚・歳勝土遺跡の保存が深く関係していたはず。そういう意味からも、この館を通じて、考古学に親しむ市民が増えてくれるといいと思います。私が子どものころは、地域の考古資料を身近に見られる施設はほとんどなかっただけに、多くの人がこの博物館を生かしてほしい、と思います。縄文時代の暮らしを調べていくと、食糧危機を乗り越えるための植物食の工夫や、自然と共生し、持続的に利用する知恵など、縄文人から現代人が学ぶべきことは少なくありません。歴史が好き嫌いという分け方をして、一部の人のものと決めつけるのではなく、「歴史から学ぶ」ということが、世の中で広く行われるように、と願っています。

▽いまむら・けいじ プロフィール

●一九四六年、東京に生まれる。東京大学文学部考古学専修課程卒業、同大学院人文科学研究科博士課程中退。専門は考古学。東京大学文学部教授を経て現在、帝京大学文学部教授。

●主な著書 『宮の原貝塚』（青友書房、一九七二年）『霧ヶ丘』（霧ヶ丘遺跡発掘調査団、一九七三年）『縄文の実像を求めて』（吉川弘文館、一九九九年）『土器から見る縄文人の生態』（同成社、二〇一〇年）

昔のくらしと年中行事

—ちよっとむかしのよこはま—

によせて

私たちのくらしの中ではさまざまな年中行事がおこなわれています。現在では商業イベント化した感のある行事も多く見られますが、かつてのくらしの中の行事は、農業や漁業などの各家の生業に関連したものがほとんどでした。それ故に、行事を見れば

はその家や地域のくらし方がわかるともいえます。

本展の二章「イエの行事・コウの行事」

ではそれを象徴するように、博物館へ寄贈された地神信仰にもとづく「ジンコウ」の行事で使われた掛軸を展示しています。聞き慣れない言葉ですが、漢字で書くと「地神講」となります。地域によっては「地鎮講」と記すところもありますが、どちらも対象とするのは農業の神や土地の神として信仰される「地神様・地鎮様」です。「講（こう）」というのは代々横浜に住まれてきた方々の繋がりのことですが、他の地域から横浜へ移り住まれた方にはなじみのないものかもしれません。その理由として、高度経済成長期以降に横浜へ移り住まれた方の多くは、新興の住宅地や団地などの集合住宅にお住まいで、そうした方々が新たに旧来の講に加入するということはないからです。また、基本的に生業を同じくする家々が多い講中では、天候や病害虫、作物などが共通の話題になり、そのため豊作の祈願や収穫への感謝をする地神講をはじめ、講中が主体となる年中行事がおこなわれてきました。いっぽうで勤め先が異なる人々が住む新興住宅地では、自治会はあっても生業にもとづく年中行事がおこなわれること

はありません。こうしたこともあって、講中でおこなわれてきた行事が広く知られることはなかったのです。

会場には写真のように地神講の際に掲げられた掛軸を一〇点展示しています。すべて博物館へ寄贈いただいたものですが、いずれも地神講を中止された講中ということになります。近年では講中で開催してきたいろいろな行事をやめるところが増えています。長く続けられた行事が終わってしまふのは残念ですが、世代交代が進み、講中の家々でも農業から会社勤めへと働き方が変わり、近所付き合いも変わってきたことの現れでもあります。

本展覧会の準備の中でそれぞれの掛軸を調査していったところ、新たな発見もありました。青葉区鉄町の中鉄講中より寄贈いただいた文化二年（一八〇五）につくられた掛軸は、神奈川県内で現存が確認できる一番古いものであることがわかり、地神様の信仰もおおよそこの頃から広まったとみられることから、横浜市内の地神講を考える上で重要な資料に位置づけられます。

地神講に限らず、くらしの中でおこなわれてきた年中行事は、それを担う家々や講中を取り巻く社会の変化とともに少しずつ変わってきています。本展覧会では主に昭和

和三〇年代～五〇年代の資料を中心に、一年の中で横浜に見られた行事を紹介しておりますが、まだまだ「現代」のように感じられる昭和も確実に昔のものとなつていきます。今ではもう見られない行事も近年流行の商業的な行事も、私たちのくらしを反映していることには変わりありません。企画展を通して、かつてのくらしを懐かしんだり、今のくらしを考えたりするきっかけにして頂ければ幸いです。

（羽毛田智幸）



ハマの東海道

によせて

江戸時代における横浜地域の地域性は、(1)一〇里(約四〇キロ)という一日行程の範囲に存在する江戸の近接地域であるという同心円状の特徴とともに、(2)江戸に入る陸上交通(東海道等)・海上交通(太平洋海運)の入口に位置するという方位的な側面の特徴も持っています。そうした意味において、東海道とその宿場、及び東京湾沿岸に所在する湊の存在は、近代都市・横浜の発展過程における直接の前提として考えることができます。

中でも市域を鶴見区・神奈川区・西区・保土ヶ谷区・戸塚区の順で、北東から南西へと縦貫する東海道には、神奈川・保土ヶ谷・戸塚という三つの宿場の存在と合わせて、かつての賑わいを想起させるさまざまな建物・道標・名所旧跡の跡地等が残されています。現在では、こうした旧道の道筋を歩く人々も次第に多くなり、その案内をするボランティアガイドの会も各地で活発な活動を展開しています。また、東海道や宿場を町おこし・地域

づくりの重要な基盤の一つとして位置付ける市民グループも現れるようになっていきます。いわば、単なる過去の歴史としてではなく、現在そして未来へつながる貴重な文化資源として、市域の東海道は見直されつつある状況にあります。

こうした東海道の重要性をふまえて、当館でも屏風・絵巻・双六といった絵画資料の形態分類に依拠したもの、あるいは神奈川宿・保土ヶ谷宿・戸塚宿といった個別の宿場を

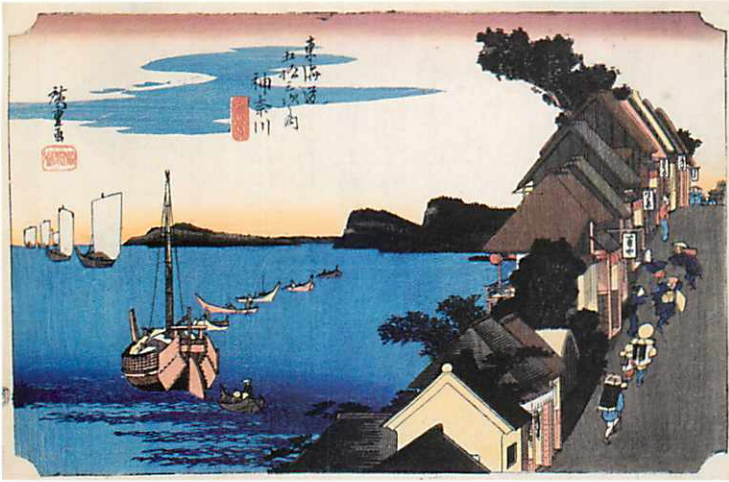
テーマとしたもの等、さまざまな東海道関連の企画展・収蔵資料展を開催していますが、今回の企画展「ハマの東海道」は、市域の東海道、そして東海道の全体を歩き、見聞きしていく際に有効なイメージを持てるように、第一章「描かれた東海道」、第二章「ハマの東海道」、第三章「保土ヶ谷宿・脇本陣藤屋」、第四章「浮世絵でみる五十三次」という構成で展示します。

第一章「描かれた東海道」は、展示全体のプロログとしての位置付けで、東海道全体を一覧できるように描かれた屏風・双六類と、宿場をコマごとに記した双六類等を展示します。第二章「ハマの東海道」では、市域の東海道においてポイントとなる宿場・名所・旧跡などを、西→東の順序(江戸時代の表現では「下り」になります)で、浮世絵等の絵画資料を中心に展示・紹介します。第三章「保土ヶ谷宿・脇本陣藤屋」は、新たに発見された保土ヶ谷宿脇本陣藤屋資料の紹介で、藤屋の図面・印鑑類など同家関係の資料と、裏紙・下張資料から見出された近世中期の神奈川宿関係文書と幕末期の日記断簡を展示します。第四章「浮世絵でみる五十三次」では、東海道全体のイメージを感じてもらうため、①東海道五十三次名所図会・②末広五十三次・③保永堂復刻(いずれも五五枚揃)を展示します。

本展示を通じて多様な魅力を持つ東海道とその宿場について御理解いただき、出来ればその道筋を歩かれるように感じていただければ幸いです。

(斉藤 司)

会期Ⅱ平成二六年四月五日(土)～
五月一八日(日)



東海道五拾三次之内 神奈川



東海道五拾三次之内 保土ヶ谷



東海道五拾三次之内 戸塚

特別展

佐久間象山と横浜

―海防、開港、そして人間・象山―

(仮題)

によせて

佐久間象山(しょうざん、どうざん、一八一〇―一八六四)は、信州(長野県)松代藩

の藩士で、学者、思想家です。象山は儒教や蘭学、砲術などさまざまな学問に通じ、地震予知器や電気治療器を発明したり、オランダ語辞書の出版を計画したりしました。また、松代藩主真田幸實が海防掛(海岸防備担当)老中となると、その命を受けて海外事情を研究し、海防の充実などを積極的に主張しました。その一方、文人でもあり、漢詩や書の作品も数多く残っています。

このように多才な象山のもとには、多くの門人たちが集い、砲術や儒学を学びました。

江戸で開いた塾には、吉田松陰、勝海舟、山本覚馬といった人々も通いました。安政元年(一八五四)、象山は吉田松陰に海外への密航をすすめたとして捕らえられ、松代で謹慎生活をすることになりますが、その住まいには高杉晋作なども密かに訪れたそうです。

謹慎は文久二年(一八六二)に解かれ、元治元年(一八六四)三月には、幕府の命令で上洛します。京都での象山は、有力な公家たちや一橋慶喜などに面会し、公武合体や開国を主張しました。愛馬には西洋の馬具を用いていたそうです。しかし、こうした主張や行動のために象山は攘夷派から狙われ、ついに

同年七月一日、三条木屋町筋で襲撃され、命を落としてしまうのです。(写真左下)

この象山、実は横浜と関わりがあります。嘉永七年(安政元年、一八五四)、ペリーが二度目に来航した時、松代藩は横浜応接所の警備を命じられます。この時象山は、藩の軍議役として実際に横浜応接所を警備しました。またこの時、下田を開港する幕府の方針に対し、軍事上の理由などから、横浜を開港すべきだと主張しました(実際は採用されませんでした)。現在、野毛山公園には、象山を「横浜開港の先覚者」としてたたえる石碑が立っています。(写真左上)

当館では、この象山ゆかりの資料を所蔵しています。資料は妻・順子(勝海舟の妹。嘉永五年(一八五二)結婚、象山四二歳、順子一七歳)のもとに残されたもので、手紙や詩稿、書画、印章など多岐にわたります。なかでも順子宛の手紙からは、象山の意外な姿が見えてきます。少し意識してみると…

「生麦村あたりから見る横浜の湊の景色は、まるで西洋画のようですよ」「無くしてしまった青い眼鏡(サンングラス?)、あなたの言った通りの場所を探したら見つかりました。あなたの記憶力の

おかげです!」
「京都の大丸で羽織袴などを揃えたら、三〇両もかかって肝をつぶしてしまいました!」
いかがでしょうか。年下の妻に対する、思想家でも学者でもない象山の新たな一面が見えてきませんか?

展覧会では、当館の資料をはじめ、関係する資料を一堂に会し、象山の人間的魅力に迫ります。さらに、象山の著作や、横浜応接所警備に関する資料、象山死後の顕彰に関する資料などから、「横浜開港の恩人」とも言われた象山と横浜の関係を改めて考えたいと思います。

平成二六年(二〇一四)は、象山の没後一五〇年目にあたります。この節目の年にあたり、本展を通じて、佐久間象山の知られざる人物像、そして横浜との関係について思いを馳せていただけたら幸いです。

(小林紀子)

会期Ⅱ平成二六年五月三十一日(土)～

七月六日(日)

展示の詳細や休館日などは、催し物案内やホームページをご覧ください。

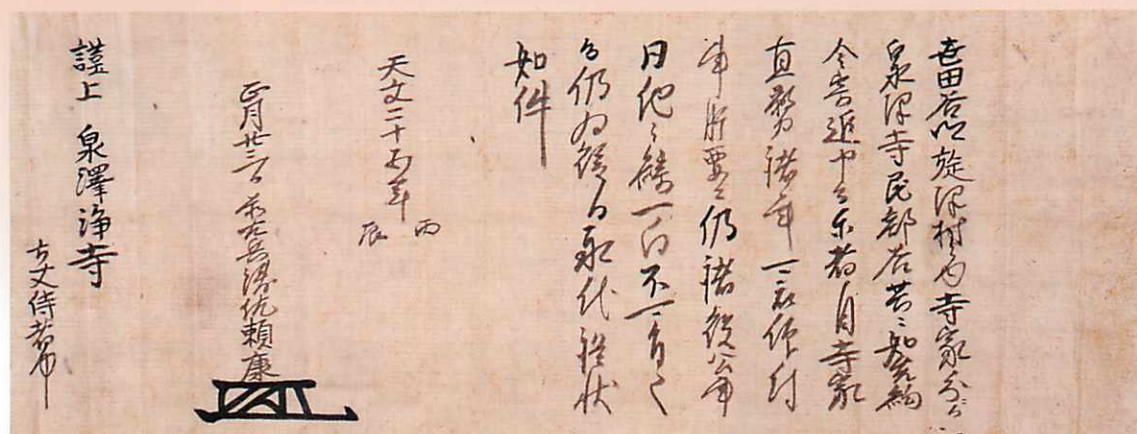


佐久間象山の顕彰碑(野毛山公園)



佐久間象山遭難の碑(京都・三条木屋町)

武藏吉良氏とその家臣たち



吉良頼康判物(川崎市・泉沢寺蔵):天文25年(1556)正月23日付

横浜市南区蒔田町、現在横浜英和女学院の建つ場所は、中世の蒔田城跡と伝わり、室町・戦国時代にこの地を所領の一つとした吉良氏の城館があったと言われています。ここでは吉良氏とその吉良氏家臣についてご紹介します。

吉良氏は、身分の序列や格式等を基とした儀礼が定まっていた室町中期以降の武士社会のなかで、足利尊氏とその源を一つにする名家として尊ばれており、そのうち東国に拠点を据えた一族を武藏吉良氏と呼んでいます。永和二年(一三七六)の吉良治家の鶴岡八幡宮に対する寄進状から、この頃には武藏国世田谷郷(東京都世田谷区)を領していたとみられ、また漢詩集『梅花無尽蔵』で吉良氏を「蒔田御所」と記すところから、蒔田の地も世田谷郷に続いて領有していたのではないかと考えられています。吉良氏には小田原北条氏の娘が二人嫁いでおり、貴種と縁を結ぶことで関東支配を遂行した北条氏の姿を見ることが出来ます。

蒔田城周辺には吉良氏家臣の伝承を持つ家が複数あります。まず森氏は吉良氏家臣・江戸氏の代官を務めて古文書にその名が見えており、また蒔部(軽部)氏は『北条記』巻四「信玄小田原出張の事」に、「此の近所蒔田と云所に吉良左兵衛佐殿居住なり、(中略)御台所は蒔田に御座す、(中略)軽部豊後守、折節蒔田に有しかば、各吉良殿屋敷の前なる山に上り、鉄砲をしかけ侍ければ、敵是へも来

たらず(以下略)」と記されています。

世田谷区の寺院・勝光院の伝える縁起には、森氏・蒔部氏および近世に蒔田村名主を務めた並木氏について、小田原北条氏の娘が吉良氏朝に嫁いだ際の供奉衆として世田谷に來たと記しており、いずれも小田原城落城後は帰農しています。

ところで、世田谷区に鎌倉期より続くという閑家も、吉良氏家臣として古文書に登場し、世田谷勝光院の本尊造立や同区勝国寺の薬師如来造立の際にも本願として名前を遺しています。文化十三年(一八一六)に幕府の書物奉行・石井至毅の編めた『世田谷徴古録』を見ると、この閑家の分家に武藏国都筑郡勝田村・関八郎右衛門家があり、同郡池辺村字加賀原や久良岐郡閑村をも領したと記されています。現在も都筑区勝田町に続く閑家は、その建物を国の重要文化財に指定され、また『新編武藏風土記稿』『勝田村』の項には、先祖を閑加賀守と記しています。勝田村・閑家の先祖は、吉良氏家臣だったようです。

森氏・蒔部氏や閑氏等は地域の有力百姓であり、また領主の吉良氏や北条氏の家臣でもありました。彼らは両家の婚姻を通じて互いの領地を行き来していたのでしょう。吉良氏に関わる資料からは、戦国時代の世田谷と蒔田という、地域の人々の交流を伺うことが出来ます。(阿諏訪 青美)

*『武藏吉良氏』については荻野三七彦『吉良氏の研究』(名著出版 一九七五年)ほか。
*『吉良治家書下(世田谷区史料第二集 一号文書、世田谷区、一九五九年)。
*『梅花無尽蔵』巻二、二二〇号(続群書類完成会、一九九三年)。
*『勝光院愛縁仏縁起』(石井至毅著『新編武相志料世田谷吉良旧事考』所載)。

ちょいと

ミュージアムショップたいむ
Museum Shop Time

横浜市歴史博物館 オリジナルグッズ

当館ミュージアムショップには数々のオリジナルグッズがあります。

今回紹介させていただくのは、「把手くん」と、人面把手です。

人面把手とは、縄文土器の把手部分が人間の顔に表現されている物のことをいいます。ひとつひとつ手作りで表情も様々。笑っているような顔、すまし顔、キリッとした顔。お好みの表情を見つけて癒されてみませんか。価格もリーズナブルで1個500円(税抜き)です。



1個500円(税抜き) 色々な表情があって見ているだけで楽しい

把手くん以外にも簡型土偶や弥生時代の土器など、当館でしか手に入らない物を不定期で製作しています。この記事をお読みになって興味を持っていただいた方は是非、ミュージアムショップに足を運んでいただき、実際に手にとってご覧になることをお勧めします。数に限りがありますので売り切れてしまっている場合はご容赦ください。ご来店のタイミングによっては、把手くん以外の新しいオリジナルグッズが新発売されているかもしれませんね。

学校内歴史資料室を活用した 博物館デビュー支援事業

文化庁の「平成二五年度文化芸術振興費補助金 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に、横浜市歴史博物館が核となり実行委員会を構成して応募した「学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業」が採択され、事業計画に基づき事業を推進しています。

この事業は（一）資料所在および授業活用状況調査事業、（二）学校内歴史資料室を活用した授業案の事例検討・研修会開催事業、（三）街頭紙芝居による博物館体験促進と人材育成事業の三つから成り立っています。



2013「学校に歴史資料室を作っちゃおう!フォーラム in 歴博」の様子

（一）の事業は、横浜市内の小学校が所蔵する資料群を積極的に活用していく前提作業として、学校が所蔵する資料の現状を把握するもので、市内三四二の小学校が所蔵する資料の所在、管理保管状況等の調査を行いました。調査は、（ア）全校への書面アンケート実施と、（イ）博物館を中核に調査団を組織し、実物資料を調査・整理し、目録化することの二つです。（ア）全校アンケートでは三一九校から回答があり、全部で五〇八八一件の資料が所蔵されていること、七八校に「学校内歴史資料室」があることが判明しました。次いで「学校内歴史資料室」をもつ学校の活用状況を調査しました。その結果、資料室はあっても所蔵資料のリストが無い学校がほとんどで、資料のネームプレートも無い学校が多いことが分かりました。こうした状況にどのように対応していくかは今後の課題です。また（イ）の調査は、桜岡小学校（港南区）、大道小学校（金沢区）、川和小学校（都筑区）、中山小学校（緑区）の所蔵資料を対象に実施し、資料のカード化・目録化を行っています。

（二）は、校内歴史資料室や所蔵資料を活用した授業のあり方を検討し、実践されている校内歴史資料室の事例や活用方法を市内学校教諭に広く紹介し、教諭研修に資することが目的です。この事業では、校内歴史資料室を活用している学校、地域と協力して歴史資料室の運用を行っている学校を取り上げ、その成果と課題を検討する事例検



資料整理の様子

討会を、大道小学校（金沢区）、川和小学校（都筑区）、中山小学校（緑区）の三校で開催しました。検討会では地域の方々も加わり、活発な議論が行われました。こうした検討会をふまえ、公開研修会として「学校に歴史資料室を作っちゃおう!フォーラム in 歴博」を二月二日（日）に開催し、小学校の先生をはじめ一三〇人近い参加者を得ました。

（三）は、紙芝居上演活動を介して、博物館に馴染みのない近隣の小学校低学年や未就学児を対象に、博物館デビューをサポートするものです。この事業では、博物館収蔵の紙芝居の複製製作活動を行うと同時に、平成二五年七月から、毎月最終土曜日に「おもしろいぞ!紙芝居」と題して紙芝居の上演を行っています。

こうした「学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業」は短期間で成果をあげるのには難しいもので、今年度の取り組みも、手始めの段階といえます。今後も継続的に事業を展開していきたいと考えています。

（平野卓治）

新指定・登録文化財パネル展

横浜市では、横浜市文化財保護条例を昭和六二年（一九八七）二月に制定し、横浜や市内各地域の歴史、文化、自然を理解する上で重要な価値を持つ建造物、文書、美術工芸品、伝統芸能、史跡などを指定・登録しています。現在までの指定文化財は一五三件、地域文化財の登録は九二件を数えます。

横浜市歴史博物館では市教育委員会と協力して、指定・登録の文化財を公開してきましたが、平成三五年一月一三日まで、博物館のエントランスホールにおいて、市教育委員会により平成三三年度から三五年度に指定・登録された文化財のパネル展が開かれました。平成三三年度指定の「絹本着色仏涅槃図（絵画）」、「四年度指定の「東漸寺詩板（歴史資料）」、「根岸の神神興（無形民俗文化財）」、「三年度指定の「鶴見川流域の廻り地蔵（無形民俗文化財）」など全九件の指定・登録文化財の写真パネルと解説が展示されました。

来館者の多くはパネル展に見入り、地域の文化財に思いを馳せていました。



??????? 知ってますか ????????

博物館感謝デー

毎年恒例「博物館感謝デー」。当館の開館記念日が1月31日であることにちなんで、その日にいちばん近い土日に行います。入館無料、イベント盛りだくさんの2日間です。開館19周年の今年は25日と26日に開催しました。



イベント内容や出演者を考えるにあたっては、「歴史博物館らしさ」があって、お祭りにふさわしい出し物はなんだろう」と日頃からアンテナを張っています。そういう意味では1年かけて考えている…とも言えます。よく見ると職員みずから出演していたりも！

その甲斐あってか、2日間で5,000人を超えるお客様がいらしてくださいました。また、歴史を学んだ後に空から現在の街を眺めると、きっと新しい発見があるはず…ということで、モザイクモール港北のご協力で観覧車に乗れる企画を実施したところ（企画展「昔のくらしと年中行事」とのタイアップです）、2日間で約800組の方がお乗りになりました。博物館がにぎわうことで、街にもにぎわう。そんないい関係をもっと作っていきたいと思います。

これからの催しもの

- ◎4月 5日(土)～5月18日(日) 企画展「ハマの東海道」
- ◎5月31日(土)～7月 6日(日) 特別展「佐久間象山と横浜」(仮称)
- ◎7月19日(土)～8月31日(日) 企画展「蒔田の吉良氏」(仮称)
- ◎9月13日(土)～9月28日(日) 「都筑区制20周年記念展示」(仮称)

表紙写真は

当館へ寄贈いただいた地神講の掛軸です。描かれているのは、横浜では土地や農業の神として祀られる「地神様」です。江戸時代後期以来、地域では春と秋の社日（彼岸の中日に最も近い戌の日）に地神講がおこなわれてきました。左手に鉾、右手に小槌をもつ地神様は横浜市内でも北部方面で見られるお姿です。

横浜市歴史博物館 日誌

二〇一三年十月一日～二〇一四年三月三十一日

- [9月20日～] 体験学習室ミニ展示「江戸の旅・明治の旅」(11月28日まで)
- 10月1日～3日 臨時休館
- 10月4日 歴史講座古文書解説教室「初めての古文書」(12月6日まで全10回)
- 10月5-6日 体験学習「縄文時代の土偶(どく)」
- 10月10日 都筑・道徳公園・民家園 アート月間(11月29日まで)
- 10月12日 企画展「横浜市立大学コレクション・古地図の世界～地球のかたちと万国の大地～」(11月24日まで)
- 10月13日 企画展関連フロアレクチャー
- 10月19日 企画展関連研究講座(1)「横浜市立大学古地図コレクションについて」
- 10月20日 企画展関連研究講座(2)「地図の中の歴史～絵地図と測量～」
- 10月26日 企画展関連フロアレクチャー
- 10月27日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始I】」
- 10月27日 ラストサタデープログラム「おもしろい紙芝居」
- 10月27日 企画展関連フロアレクチャー
- 11月2日 企画展関連研究講座(3)「デジタルアーカイブと「地図」」
- 11月2日 企画展関連研究講座(4)「地図の文化史～江戸時代の世界観と社会～」
- 11月3日 企画展関連ミニ講座「絵地図の見方・読み方etc」(1)
- 11月3日 企画展関連フロアレクチャー
- 11月4日 「都筑区民まつり」出展
- 11月9日 企画展関連ミニ講座「絵地図の見方・読み方etc」(2)
- 11月9日 企画展関連研究講座(5)「地図の近代化と領土国家の形成～タイの事例から～」
- 11月10日 企画展関連ミニ講座「絵地図の見方・読み方etc」(3)
- 11月10日 企画展関連フロアレクチャー
- 11月12日 企画展関連ミニ講座「絵地図の見方・読み方etc」(4)
- 11月13日 ふるさと横浜探検4「埋蔵文化財センターから武家の古都鎌倉へ～八百八やぐら・覚園寺と永福寺跡を訪ねて～」
- 11月16日 企画展関連講演会「遠くから大地～世界図の表現をめぐる～」
- 11月17日 企画展関連ミニ講座「絵地図の見方・読み方etc」(5)
- 11月17日 企画展関連フロアレクチャー
- 11月19-24日 企画展関連ラストウィークフロアレクチャー
- 11月20日 中世史講座「鎌倉幕府御家人 平子氏」(12月4日まで全3回)
- 11月20日 民俗学講座「年中行事・古民家など」(12月4日まで全3回)
- 11月23-24日 体験学習「ぞうり組み」
- 11月24日 企画展関連ミニ講座「絵地図の見方・読み方etc」(6)
- 11月29日 体験学習室ミニ展示「ちょっと昔を探してみよう」(4月3日まで)
- 11月30日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始II】」
- 11月30日 ラストサタデープログラム「おもしろい紙芝居」
- 12月7日 企画展「市指定文化財の「はにわ」たち」横浜の道徳展 古代都筑郡の考古学～北川谷道徳群から「鑑」を考える～(1月13日まで)
- 12月7日 新指定・登録文化財「パネル展」(1月13日まで)
- 12月14日 企画展関連フロアレクチャー
- 12月14-15日 体験学習「和風(わどく)」
- 12月21日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【古代】」
- 12月21日 ラストサタデープログラム「おもしろい紙芝居」
- 12月22日 第25回エントランスホールコンサート「クリスマスはってコンサート～聖なる響きをフルートとともに～」
- 1月11日 収蔵資料ミニ展示「新収蔵資料世絵展」(1月19日まで)
- 1月12日 企画展「横浜の道徳展」関連講演会「古代武蔵・相模の考古学～拠点集落と地域支配～」
- 1月12日 企画展関連フロアレクチャー
- 1月15日 企画展「昔のくらしと年中行事～ちょっとわかしよはこま～」イベント「博物館DEどんと焼き」
- 1月15日 近世史講座「神奈川と野毛浦～二つの入江・入海の江戸時代～」(2月12日まで全5回)
- 1月15日 古代史講座「古事記と日本書紀・律令・木簡など」(2月12日まで全5回)
- 1月18日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【中世】」
- 1月18日 ラストサタデープログラム「おもしろい紙芝居」
- 1月18日 2階ロビーミニ展示「縄文土器づくりの会作品展」(1月26日まで)
- 1月19日 収蔵資料ミニ展示解説
- 1月24日 企画展「昔のくらしと年中行事～ちょっとわかしよはこま～」内覧会
- 1月25日 企画展「昔のくらしと年中行事～ちょっとわかしよはこま～」(3月23日まで)
- 1月25日 企画展関連みんなであつて写真展「わたがみつけた横浜の年中行事」(3月23日まで)
- 1月25日 開館19周年記念特別講演会「縄文人の生活と知恵～横浜の道徳を中心に～」
- 1月25-26日 博物館感謝デー
- 2月1日 実験考古学講座「縄文土器づくり」(3月15日まで全4回)
- 2月8日 企画展関連親子向けフロアレクチャー
- 2月8日 収蔵資料ミニ展示「縄文時代草創期の遺物」(2月16日まで)
- 2月8-9日 体験学習「紙すき」
- 2月9日 企画展関連講演会①「歴史学からみる年中行事(歳事)」
- 2月15日 企画展関連親子向けフロアレクチャー
- 2月16日 企画展関連フロアレクチャー
- 2月16日 収蔵資料ミニ展示解説
- 2月19日 体験学習「横浜の土偶(どく)」
- 2月19日 企画展関連研究ミニ講座①「横浜の年中行事概観」
- 2月22日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近世】」
- 2月22日 ラストサタデープログラム「おもしろい紙芝居」
- 2月26日 企画展関連研究ミニ講座②「日本の盆行事について」
- 3月5日 企画展関連研究ミニ講座③「家の行事・地域の行事」
- 3月8-9日 企画展関連「ARを使った企画展を楽しむ実験」
- 3月8日 企画展関連親子向けフロアレクチャー
- 3月9日 収蔵資料ミニ展示「竹の民具」(3月16日まで)
- 3月9日 企画展関連講演会②「盆と正月を中心とした神奈川の年中行事」
- 3月15日 野焼き
- 3月16日 収蔵資料ミニ展示解説
- 3月19日 2階ロビーミニ展示「私たちがつくった縄文土器展」(3月23日まで)
- 3月21日 ふるさと横浜探検5「バスツアー・鉢形城と埼玉の史跡を訪ねて」
- 3月22日 企画展関連フロアレクチャー
- 3月22日 企画展関連親子向けフロアレクチャー
- 3月23日 「センター北まつり」出展「おもしろい紙芝居」臨時上演
- 3月29日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近現代】」
- 3月29日 ラストサタデープログラム「おもしろい紙芝居」

編集後記

雪が降り積もることが多くありました。大塚・歳勝土遺跡公園の復元竪穴住居もすっかり雪化粧をしていました。そんな寒い時、弥生時代の人たちはどのようにして過ごしていたのでしょうか。春を待つ気持ちは今も昔も変わらないのかもしれません。(H)

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

- 開館時間
午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日
歴史博物館・大塚遺跡
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。
- 常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「演ともカード」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

- 交通案内図 横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



- 駐車場あり(1時間200円)
- インターネットホームページ <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>
@yokorekihaku

